



第1章 科学技術振興指針策定の趣旨

1. 科学技術振興の動向

(1) 科学技術の役割

我が国における科学技術を取り巻く社会経済の環境は、私たちの生活に密着したものをはじめ、人口減少、少子高齢化、グローバル化、産業競争力の低下、食糧・エネルギー問題等様々な課題を抱えており、県民生活の向上や、地域産業の振興のために科学技術が果たすべき役割・重要性はこれまで以上に高まっています。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、日本全体の経済産業システムやライフスタイルに大きな変革をもたらそうとしています。

こうした中、人々の暮らしをより良いものにするとともに、高い生産性と競争力を持ち、持続的に成長する地域産業を育てるためには、科学技術の絶えざる技術革新の成果を県民生活や地域産業に結びつける活動をさらに強化していくことが求められています。

(2) 科学技術をめぐる動向

国においては、科学技術基本法（平成7年11月15日法律第130号）の下、長期的な視野を踏まえた科学技術基本計画を策定し、体系的かつ一貫した科学技術政策を展開しています。また、同法第4条には、「地方公共団体は、科学技術の振興に関し、国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性を生かした自主的な施策を策定し、及びこれを実施する責務を有する」と規定されており、本県においても、地域科学技術の振興に関するガイドラインとして、平成15年3月に大分県科学技術振興指針（以下、「指針」という。）を策定しました。

この間、科学技術に親しむ環境づくり等の人づくりに関する取組や、県立試験研究機関の充実・強化等の基盤づくりに関する取組のほか、産学官の連携・交流の促進等のネットワークづくりに関する取組などを推進してきました。

こうした中、国においては、平成23年8月に第4期科学技術基本計画を策定し、科学技術政策の役割を、科学技術の一層の振興を図ることはもとより、人類社会が抱える様々な課題への対応を図るためのものとして捉え、科学技術政策を国家戦略の根幹としました。さらに、他の重要政策とも密接に連携しつつ、科学技術によるイノベーションの実現に向けた政策展開を目指し、様々な価値創造をもたらすための新たな戦略と仕組みを構築することとし、科学技術政策が社会及び公共のための主要な政策の一つとして、その役割を高めつつ使命を果たすものと位置づけました。

(3) 第1期指針の内容と成果

平成15年3月に策定した第1期指針は、「独創性と活力ある産業の創造」「安心・安全な生活環境の創出」を基本目標として、「科学技術を担う人づくり」、「科学技術を支える基盤づくり」、「科学技術を進めるネットワークづくり」を基本方向としており、県では、本指針に基づいて科学技術振興施策を展開してきました。その主な成果は以下のとおりです。

【第1期指針の成果】

- ・ スーパーサイエンスハイスクール¹に大分舞鶴高校が平成17年度から26年度まで、日田高校が平成23年度から27年度まで文部科学省から指定され、科学系人材の育成のためのカリキュラム開発や課題研究などの探究的活動に取り組んでいます。
- ・ 子ども達が気軽に科学やものづくりを体験できる施設「少年少女科学体験スペースO-Labo（オーラボ）²」を平成22年度に設置しました。
- ・ 県立工科短期大学校では企業ニーズに応えるため、平成19年度から「4訓練科」から「3系7コース制」に変更し、機械・電子システム系の定員を増加しました。また、九州工業大学との連携協定により、平成20年度から3年間、ロボメカ技術者育成のための特別講義を開講するなどの取組を実施しました。
- ・ 産業科学技術センター、農林水産研究指導センター、衛生環境研究センターで構成する「試験研究機関連携会議」において機器の相互利用を図るほか、農商工連携などの部局を横断する研究の必要性の高まりを受けて、公設試農工連携共同研究を実施しました。
- ・ 平成20年1月から5年間、(公財)大分県産業創造機構が管理法人となって大分大学などの研究シーズ³を活用した次世代電磁力応用機器開発技術の構築に、産学官が連携して取り組んできました。これにより、産業ロボット用モータの大幅な小型化、世界初のアモルファスモータ⁴の開発、画期的なモータ損失可視化技術等、世界最高水準の電磁力応用技術開発拠点の基盤が形成されました。
- ・ 競争力強化による多様な産業集積を推進するため、大分県LSIクラスター形成推進会議、大分県自動車関連企業会、大分県エネルギー産業企業会など各種企業会を設立しました。
- ・ 県内の産学官の交流や、産学官連携による新事業の創出を促進するため産学官連携推進会議を設立しました。

2. 第2期指針の趣旨

本県では、大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン 2005～ともに築こう大分の未来～（2012改訂版）」（以下、「安心・活力・発展プラン 2005」という。）を策定し、「県民とともに築く「安心」「活力」「発展」の大分県」の実現のため、基本目標を「互いに助け合い、支え合う安心・安全の大分県」「いきいきと暮らし働くことのできる活力ある大分県」「人を育て、社会資本を整え、発展する大分県」とし、夢と希望を持ち、心豊かに暮らせる大分県づくりを推進しています。

今回、第1期指針の目標年次の到達に伴い、科学技術を巡る諸情勢の変化や本県の現状・課題などを踏まえて改めて指針を策定します。第2期指針は、新たに「安心・活力・発展プラン 2005」の実現を目標に掲げ、国の科学技術政策との整合性を図りつつ、地域が持つ多様性や独自性を積極的に活用した科学技術振興施策の方向性を示すものです。

3. 第2期指針の期間

第2期指針の期間は、平成25年度（2013年度）を初年度とし、平成34年度（2022年度）を目標年次とする10か年とします。

なお、社会経済環境の変化や本県の科学技術を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するためフォローアップを行い、スピード感を持って施策に反映するとともに、期間中であっても必要に応じて見直しを行います。

¹ **スーパーサイエンスハイスクール**：将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を指定する制度。

² **O-Labo**：子どもたちの科学やものづくりに対する興味・関心を高めるため大分県教育委員会が設置している施設。「O」はOita、Openなどを、「Labo」はLaboratory（実験室）を表す。

³ **シーズ**：種、実、種子のこと。高等教育機関や公設試験研究機関、企業などが保有する技術、特許などで、将来的に新しい産業の創出において活用可能なもの。

⁴ **アモルファスモータ**：磁化しやすいアモルファス金属（非結晶）を使用したモータ。新しいモータ構造により高速化、低コスト化を実現している。